

学校だより

令和元年9月5日(木)

# 明るく 元気に 前向きに

第8号

いわき市立藤原小学校 (文責 校長・伊達多津也)

夏休みの最終日に、常磐方部連合PTA球技大会に参加された保護者の皆様、和気藹々と笑顔で親睦を交わっていた姿が印象的でした。さらに、土曜日の奉仕作業にも多数のご協力をいただき、ありがとうございました。(奉仕作業当日参加できなかった保護者の方々が、時間の都合をつけての作業をいただき、ありがとうございます。)

## 17字で奏でよう絆ふれあい

あさがおの はながさくところ みてみたい (子)  
背丈こえ 一緒に驚く 夏の朝 (母)

ふろそうじ いっぱいきれい たのしいな (子)  
洗剤が すぐになくなる お手伝い (父)

おこめとき 手がつめたくて きもちいい (子)  
研ぐ度に ぼろぼろこぼれて 私ほらはら (母)

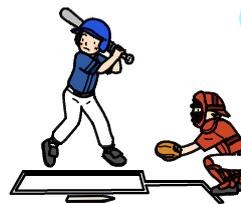
おにいちゃん キャッチボール たのしいね (弟)  
弟よ 鍛えてやるよ びしばしと (兄)

おようごうよ プールであそぶ なつやすみ (子)  
泳ぎ方 教えるために 母ひっし (母)

たおれこむ 母にそっと かけぶとん (子)  
夜勤明け かけられたのは布団と 子の思いやり (母)

かちたいな うってまもって がんばるぞ (子)  
まず一勝 応援だけは 母の勝ち (母)

全校で、50点を超える作品が出品されました。すべての作品を提出しました。校長が独自に選んだ作品群です。



### 【校長のひとりごと】 海での思い出

今回の「17字のふれあい」作品の中で、多かったのが、「初めての海水浴」「初めての海遊び」でした。子ども達の喜び具合は、直に伝わってきました。

保護者の皆様の中は、「防波堤が高くなったけど、やっといわきの海に入ることができた。」さらに、「あの震災を思い出すと、なかなか近づくことができなかった。」という文章がありました。復興が進んではいますが、心の中にある震災の跡の払拭は、時間と空間が必要と感じました。

子ども達に命の大切さを教えながら、少しずつ前向きに舵を取る時期に来ていることを感じます。